



八幡平スマートファーム 熱水ハウス

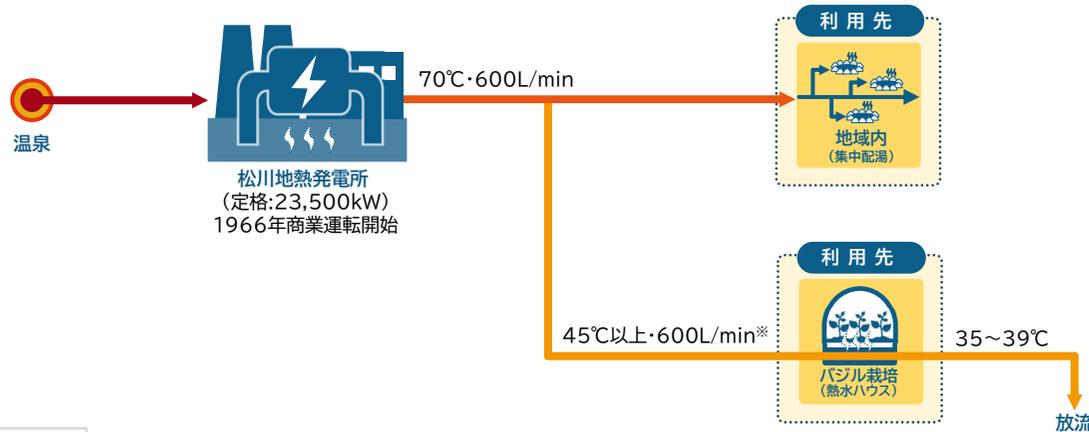


概要

松川地熱発電所から供給されている熱水をビニールハウス内のパイプに流し、輻射熱でハウス内を温め20~30℃に保つことでバジルの周年栽培を行っている。人口減少・高齢化により未活用となった熱水ハウスを最新の技術で再生し、地熱エネルギーの利用拡大、地方創生へと繋げたいという初代八幡平市の田村正彦市長の思いと、IoTシステム開発を強みとする株式会社MOVIMASの兒玉代表取締役が意気投合したことから事業が開始した。短期間での収穫が可能で加工食品メーカーをはじめ年間通じて多くの需要が見込めるバジルを温泉熱とIoT技術で安定栽培し、継続的な農作業従事による雇用の維持・創出へと繋げることで、サステナブルな農業を実現している。



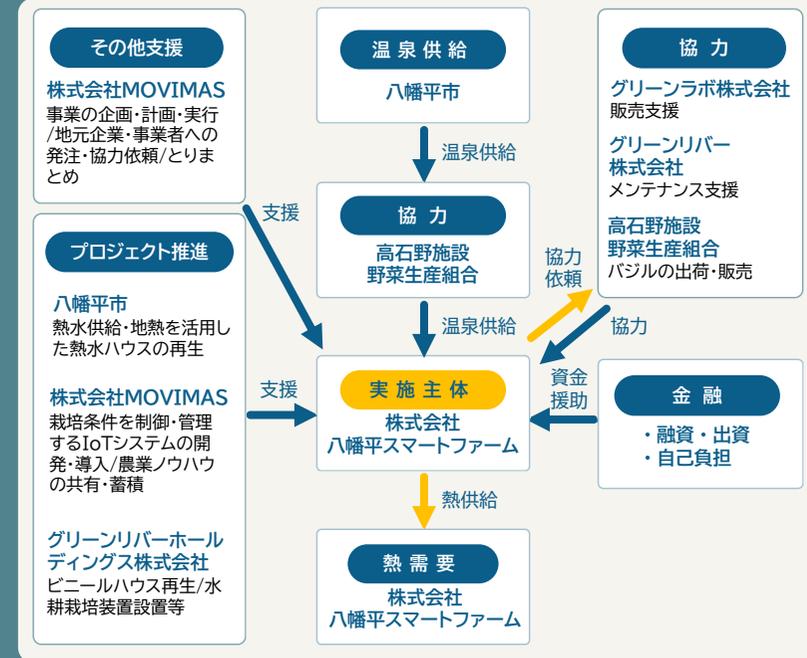
泉質	硫黄泉
熱利用温度	45℃
利用温泉	既存温泉
総事業費	約4億円



主な温泉熱利用方法

※ 本事例は「令和3年度温泉熱等の有効活用等普及促進調査等委託業務」にて調査・整理した事例であり、掲載情報は調査当時のものであることから、詳細な状況は変更されている可能性があります。
 ※ 1: CO₂排出量削減効果とエネルギーコスト削減効果は、商用ハウス12棟で化石燃料を使用した場合に想定されるコストを元に算出しており、利用季節・時間によって異なります。CO₂排出量削減効果は、重油単価100円とし、A重油利用時の想定エネルギーコストより算出した想定値です。

実施体制



事業検討の流れ

